農業体験型修学旅行に対する高校生の評価

日本学術振興会/北海道大学・澤内　大輔

北海道大学・倉岡　恭子

北海道大学・桟敷　孝浩

北海道大学・渡久地　朝央

北海道大学・山本　康貴

農林水産省は，平成20年度より文部科学省，総務省などとともに，学ぶ意欲や自立心，思いやりの心，規範意識などを育み，力強い子どもの成長を支える教育活動として，小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動を推進する「子ども農山漁村交流プロジェクト」を開始した．具体的には，全国の小学生が，農山漁村に滞在し，時期に合わせて田植えや稲刈りなど実際の農作業体験や自然体験をしながら，教室の中だけでは学ぶことができない貴重な経験をするというものである．将来的には，公立小学校の全てで実施することを目標としている．

中学校・高校においても，近年，修学旅行に農家民宿体験をとり入れて生徒に農業体験を行わせる「農業体験型修学旅行」が数多く見られるようになってきた．こうした農業体験型修学旅行が実施される背景としては，課題解決型学習や体験型学習が重視されている点が推察される．

本報告の目的は，農業体験型修学旅行に対する高校生の評価を明らかにすることである．具体的には，農業体験型修学旅行に参加したA高校の生徒に対するアンケート調査分析を試みた．

農業体験型修学旅行は教育の一環として実施されるものであるが，農業の教育効果を実証した既存研究として，山田（2006）がある．山田（2006）は，農業体験学習の効果を，農業体験学習の当事者である生徒本人ではなく，教員を対象とするアンケート調査で分析している．しかしながら，本報告のように，農業体験型修学旅行を事例として，農業体験学習の当事者である生徒本人を対象とするアンケート調査で分析した既存研究は，極めて少ない．

引用文献

山田伊澄(2006)「農業体験学習の取り組み方と教育的効果の関連性に関する分析」『農林業問題研究』第162号, pp.101-104.